

『七草粥で無病息災』

君がため 春の野に出でて 若菜摘む  
わが衣手に 雪は降りつつ

光孝天皇

〔現代語訳〕あなたのために若菜を摘む私の袖に、早春のあわ雪がしきりに降りかかります。

若菜とは春の七草などをさします。若菜を大切な人へ贈るとき、この歌を添えました。光孝天皇は源氏物語のモデルの一人と言われるくらいもてたそうです。あなたも贈り物に洒落た一首を添えてみませんか？

上の句が同じ歌に、「君がため 惜しからざりし 命さへ 長くもがなと思ひけるかな」があります。そのため、競技かるたでは6文字めまで取ることができません。いち早くどちらか一方を手で囲う。もう一方を目で狙う。6文字めの瞬間、囲った札を弾き取るか、相手の手の隙間めがけて囲い手を破るか？

競技中は歌を味わうどころではありませんが、昨年結婚した人へのお祝いに、この歌を添えました。「あなたのためなら命さえ惜しくないと思うお二人でしょうが、これからはお互いのために末永く生きてお幸せに」と願って。

山陽小野田かるた協会 久保久美子